

# 水産研だより

- 1 所長あいさつ
- 2 魚が自由に移動できる河川・排水路・水田ネットワークの再生
- 3 標識サツキマスを探しています



遡上アユ

## NEW 研究所の名称が変わりました。

研究所の名称が平成26年4月1日に岐阜県河川環境研究所から「岐阜県水産研究所」に変更したことに合わせて当所広報誌名も「水産研だより」となりました。

## 1 所長あいさつ

4月1日の異動により水産研究所長を命じられた森美津雄でございます。着任から2カ月あまりが経ちましたが一言ご挨拶を申し上げます。

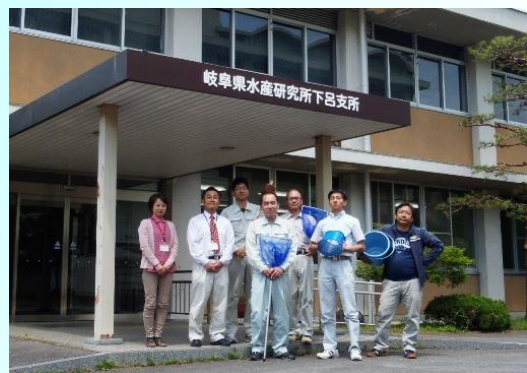
岐阜県では、清流を「守り」、「活かし」、「伝える」をキーワードに様々な取り組みによる「清流の国ぎふ」づくりを推進しています。木曾三川をはじめとした水量豊かな清流や地下水は、県の魚「アユ」をはじめ、サツキマス、アマゴなどの淡水魚を育み、昔から河川漁業や養殖業が盛んに営まれてきました。

しかし、近年の本県水産業を取り巻く状況は、後継者不足、カワウの食害、冷水病やKHVなどの疾病被害、河川環境の変化、消費者の魚離れなど厳しくなっております。当研究所では、厳しい状況を十分に認識し、行政が推進している水産振興施策と歩調をあわせ、現場で役立つ水産増養殖技術、資源管理技術、生態系保全対策技術などの調査研究に全力で取り組んでおります。また、研究成果である新たな技術や知見については、速やかに、的確に現場へ伝達することが重要と考え普及指導に努めています。

研究所の名称は、この4月から「河川環境研究所」から「水産研究所」に変更しましたが、多くの生き物が生息できる河川環境や森・川・海のつながりが健全な河川漁業の基盤と考えており、当研究所の基本目標は「人と魚が共存する水域環境の創出と水産業の振興」を堅持し、水産振興とともに河川環境の保全に関わる課題に、引き続き取り組んでいきます。

水産関係者や県民の意見を真摯に聞き、調査研究のほか、河川漁業や養殖に係る相談、環境保全学習への職員派遣など多様なニーズに応えられる身近な研究所をめざし頑張っておりますので、皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

岐阜県水産研究所長 森 美津雄



## 2 魚が自由に移動できる河川・排水路・水田ネットワークの再生

岐阜県の平野部には広大な水田地帯が広がっています。もし、河川から排水路・水田へと魚が自由に往来できるようにになれば、現在、水田や農業排水路として利用されている広大な面積が、魚の繁殖や成育の場としても再生することが期待できます。ほ場整備が進み、河川・排水路・水田のあいだで魚の往来が困難になった水田環境を改善し、少しでも魚の生息環境に配慮した農村農業づくりを研究の面から支援するため、当研究所では、排水路と水田とをつなぐ水田魚道の研究に加え、今年度より、河川と排水路との間の落差工などが改善された場合の効果を検証する研究を始めました。



(生態環境部 米倉)

## 3 標識サツキマスを探しています

当研究所では、サツキマスの標識調査を行っています。“あぶらびれ”あるいは“腹びれ”が切除してあるサツキマスを発見された方は、「捕れた河川名と標識の種類（例えば、〇〇地先の〇〇川で(あぶらor腹)びれが切られたサツキマスを捕まえた等)」を下呂支所(0576-52-3111 内線405)までお知らせ下さい。

なお、魚を提供していただく必要はありません。

(下呂支所 大原)



平成26年度の職員の異動は次のとおりです。

○ 新任者

森 美津雄 所長(前 農政課水産振興室)  
 江尻 靖子 課長補佐 兼 管理調整係長(前 出納管理課)  
 柴田 香 管理調整係主任(前 衛生専門学校)  
 河村 敏 部長研究員 兼 資源増殖部長(前 農業技術センター)  
 中居 裕 部長研究員 兼 支所長(前 農政課水産振興室)

○ 他機関への異動者

松永 良治 西濃保健所  
 日野 利明 農地整備課  
 八田 恵津子 教育財務課  
 桑原 圭司 飛騨農林事務所  
 桑田 知宣 農政課水産振興室  
 水野 守孝 東濃農林事務所